

事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和2年2月12日

事業所名 北山学園

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			利用定員は30名。指導訓練室、集会室ともに基準を満たしている
	2	職員の配置数は適切である	○		保育内容などによっては職員の配置を変えて、保育がスムーズに行えるようにしている	職員の配置は基準を満たしている 活動内容によって職員数がさらに必要な時は、担任から発信して体制をとる
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		保育室は子どもに分かりやすく表示し、配置している。2階のホールを全グループで使用後は、順番に保育室に戻り、階段で混雑しないようにしている	エレベーターが無いため、肢体不自由がある子どもの利用時は配慮が必要
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		保育室のおもちゃの消毒を毎日している	食後の床の清潔保持、保育室の毎日の清掃を行う 窓のサッシなどの清掃は日を決めて定期的に行う 遊具、設備の安全点検時に清掃チェックも行い、常に清潔を保つ
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		グループ会議、全職員会議、朝礼、日誌で周知している	全員に周知できるようにする
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		学園への要望や利用者満足度アンケートにより改善している	利用者満足度アンケートを継続する 保護者会からの要望書にて改善を検討し、保護者にも伝える
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			事業所評価を行いホームページで公表する
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		西宮市児童通所支援連絡会内で相互の評価をしている

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		園内学習会、外部研修への参加を行っている	各職員の外部研修の機会を確保している 研修後は報告会を行っている 自己研修制度の利用を促進する
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		面接、アンケート、懇談で実施している	年に3回の保護者からのアセスメントと懇談を継続する グループ担任もアセスメントを行う 各セラピスト、職員から積極的に情報を共有する 連絡ノートをの活用し、家庭と学園での情報を共有する
	11 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		発達検査を実施している	心理士の発達検査では新版K式を活用を継続する
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		子どもの要求や希望、様子を把握し、保護者にアンケートをとり、作成している 担任や周囲の支援者からの情報を得ている	個別支援計画に沿った支援を行っている 本人支援を基本に、本人の好きなこと、強みを生かして取り組む
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		担任が中心になり周知している	個別支援計画を周知するためにいつでも確認できるように、全員分を1冊にまとめる 更新したときは職員に周知する
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	○		グループと役職も一緒に考えている	月間カリキュラムはグループ内で検討して立案した後、全グループで調整している
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		グループで工夫して計画している	他のグループのプログラムも参考にしながら工夫する 保育を公開して意見をもらう 保育検討を行う 午後の全体保育を行い他の職員の保育を学ぶ機会とする 子どもを保育に引き付けるにはどうしたらいいか考えるために振り返りを短時間でも行う グループ内で楽しかったことは他のグループにも発信する
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○		言語療法士がグループ会議に参加している。作業療法士、言語聴覚士は給食指導に入っている	個別対応が集団活動の場面で活かされているか確認し、個別支援計画を作成し、実施する

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		打ち合わせが保育の直前になることが多いが連絡ノートを活用している	日誌やグループの連絡ノートで確認する 保育の準備は前日に行い、内容を事前に伝える 連絡ツールを用いて大事な部分は確認する 職員用の連絡ノートを活用して個々のねらいを確認する
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		連絡ノートに記入している	短時間でも時間を設定して振り返る
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		その日のうちに記録している	記録は、保育に関わった職員全員で行う 毎月支援の様子をまとめ検証・改善を行い、それをもとに保護者に伝える 保育の様子をVTR検証する 気になることはその日のうちに情報共有し解決する
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		年3回の個別懇談の前にアセスメントし、個別支援計画の見直しも行っている。計画に沿った支援の進捗状況を定期的に保護者に報告している	モニタリングシートを活用する
関係機関や保護者	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			担任、児童発達支援管理者、役職などが参加する
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○			必要に応じて関係機関に連絡し情報共有することを継続する
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	○		入園時に情報収集している	年に1回アセスメントし整理する 途中経過や追加の情報を知るためにファイルにする 服薬等の変更は書面で行い確実に伝わるようにする。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	○		主治医の指示に基づく対応をしている 吸入、服薬などの場合は、保護者と対応の確認を行っている	医療的ケアが必要な子どもが通園する場合は必要に応じて連携する

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
との連携関係機関や保護者との連携	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		学園での様子を伝えたり、引継ぎを行っている	必要に応じて情報共有し連携する
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		引き継ぎを行っている	担当が引き継ぎをしたり、相談支援の支援会議で情報を提供する
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		児童発達支援センター間の研修、情報共有や西宮市内の事業所間での研修、事例検討を行っている	児童発達支援センター間の公開保育に参加する 事業所間の職員の公開保育時に意見をもらう
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	○		年長児は保育園との交流保育あり	就園希望の園児の交流を検討する
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども子育て会議等へ積極的に参加している	○		子ども部会に参加している	西宮市自立支援協議会の子ども部会の参加を継続する 地域で求められる新たなテーマにも取り組む
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		毎月、支援による成長や様子を伝え 保護者とやり取り する連絡ノートを活用している	個別の連絡ノートを活用する
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○		保護者学習会の実施 発達相談、療育相談の実施	保護者学習会を様々なテーマで行う 外部での学習会の案内をする
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時に利用者負担について説明している	契約時の説明を継続し、いつでも確認できるように掲示する
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		年度当初に説明し同意を得ている。その後の変更時にも同意を得ている	継続する
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		定期的な個別懇談、心理士による発達相談を行っている	年に3回の個別懇談とグループ別の懇談会を年に2回行う 必要な助言等は電話、連絡ノートで行う 心理士による発達相談や個別相談を継続する

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	35	○		保護者会に園長が出席し、学園からの情報を提供している。グループの懇談会を定期的に行い、保護者どうしのつながりができるように支援している	今後もグループの懇談会を定期的に行い、保護者どうしのつながりができるように支援する
	36	○		必要に応じて、心理士や児童発達管理責任者、担任が対応している	相談や質問には確実に迅速に確実に対応する
	37	○		毎月発行している行事や防災訓練の様子、児童の様子、翌月の予定等を知らせている	毎月便りを発行している 連絡体制はメールを基本に行っている
	38	○			朝礼等で定期的に注意喚起している 行事時の写真撮影については保護者にも注意喚起している
	39	○			電話やメールを使い、確実に伝わるようにしている
	40	○		行事の見学案内を地域のボランティアに行なった	運動会に散歩活動に協力して頂いているボランティアを招待する ボランティアを積極的に受け入れ学園を知ってもらう機会とする
非常時等の対応	41	○		地震発生、不審者の侵入を想定した避難訓練を定期的に行っている 感染症が流行する時期には注意喚起している	避難訓練後にミーティングを行い改善点を出し合い、次回に生かす 実践的な訓練方法として、時間などの細かい設定をせずに行う
	42	○			火災を想定した避難訓練、不審者対応訓練を継続する
	43	○		入園前のアセスメントで確認している	個別の状況を確認し、情報を共有する 入園前に確認し、必要に応じて受診を依頼する
	44	○		アレルギーガイドラインをもとに対応している	医師の指示書にもとづいて支援する アレルギーがある子どもの小さな情報でも見逃さず共有する
	45	○		ヒヤリハットや事故の報告はその日のうちに作成し、翌日には周知している 日誌に添付することで再確認できるようにしている	朝礼での報告と日誌に報告書を添付し情報共有し、注意喚起する

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
46		虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		虐待防止委員会の報告書を回覧している 毎月、接遇 チェックで自己を振り返っている	研修等の報告を受け自己の振り返りを行う 定期的に研修に参加し報告会で全職員に周知する
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		契約時に説明している 個別支援計画に記載し行った場合には 日々の記録に記載している	常に意識して、身体拘束になりそうな場合は、他の方法を職員間で検討する

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。